

平成 28 年度事業計画

坂井市三国町中央 1-6-3  
(特非)坂井市障害者プラン住民会議  
理事長 阿古江 唯説

◇第 12 回障害者週間事業 平成 28 年 12 月

障害者基本法に、毎年 12 月 3 日～9 日の障害者週間中に、障害者の自立支援や社会理解の推進のために、各地で趣旨に相応しい事業を行う旨の規定があり、当市でも過去 11 年間当法人が継続して実施している。当期も、障害者の社会参加の推進と障害の地域理解の促進をテーマに、相応しい講演会や展示会を開催することを計画している。

◇福祉講演会 平成 28 年 5 月 29 日(日) 三国社会福祉センター

毎年の定時総会の開催に合わせて開催をしている。今回は、昨年夏から三国地区で実施された「引きこもり調査」により出現した事例を基に、当市における引きこもりの実態と要因と思われる事項及び支援策等を提案・検討する内容とする。また更に今年度は坂井市民生委員・児童委員協議会が、市内全域にわたり「引きこもり調査」の実施を検討しており、実施に当たる民生委員・児童委員の皆さんの研修も兼ねて開催を計画している。講師として、福井県の引きこもり対策室の代表の基調講演と、今回の調査や事例検討の中心的メンバーによるパネルディスカッションを予定している。坂井市民生委員・児童委員協議会連合会並びに坂井市社会福祉協議会との共催を予定している。

◇ピア・カウンセリング 平成 28 年 4 月～

一対一の相談形式で、24 年 11 月から、平均月 2 回程度開催しており、就労継続や精神的な安定に寄与している。働いている当事者が、現在どういう状態にあるのかを知る機会にもなっており、カウンセラーからの情報により、家庭や職場に対しても適切な対応がとれ、離職を未然に防止する意味でも有効である。今期も継続して、月 1 回程度の開催を計画している。

◇ピア・ミーティング 平成 28 年 4 月～

7～8 人程度の参加者で、毎回話し合いのテーマを決めて、年 2～3 回程度実施している。一昨年までは、県立大の真野先生の指導のもとで開催していた。目的は、他の当事者の話を聞くことで、自己を顧みることができるようになり、自信深めるきっかけになることを期待するもので、テーマに沿った形で自由な話し合いを進めている。生活自立及び就労・就労継続のための有効な方法のひとつとして、少しずつ定着させるように努めている。会員の中に、断酒会の役員メンバーがおり、そのミーティングのやり方も参考にしたいと考えている。心理療法士やソーシャルワーカー、ピアカウンセラーの参加も予定している。引きこもりの対策にも有効とされている。

◇ピア・サークル 平成 28 年 4 月～

心身の健康管理と交流のための集まりで、過去に「パソコン教室」や「料理教室」やスポーツ交流を開催した。今期も参加者が興味を持てる中身で、自立や就労支援につながることを考えて実施したい。

#### ◇引きこもりの調査と支援の研修 平成 28 年 4 月～

平成 26 年 12 月に当法人が主催した第 10 回障害者週間の集い「普通の大人が引きこもる・・・秋田県藤里町の挑戦」で招いた藤里町社協の事務局長菊池さんの講演会が、今回の引きこもり実態調査のきっかけになっている。昨年は、三国町で実施したのみであったが、その過程で得られたいろいろな課題を整理し、当事者の事例を分析することで、全市に調査の範囲を広めていきたい。そのために、民生委員・児童委員協議会各支部での識者を交えた研修会や事例検討会を開催する。

#### ◇就労応援セミナーと企業合同説明会 平成 28 年 9 月

在宅の障害者や特別支援学校卒業予定者及び保護者を主な対象とした、講演会と企業の就職説明会を開催する。講演者は、障害者雇用の実績のある企業の代表者。説明会参加企業は、雇用計画のある民間企業とA型事業所事業所で、35社程度。参加者は150名を予定。坂井市と共催。

#### ◇授産品の販売支援 通年

就労先の開拓営業に関連して、授産品の利用を主として就労開拓企業に働き掛ける。また、当法人が関係する催し物には、販売コーナーを設けるなど機会を作る。

#### ◇企業・事業所訪問 平成 28 年 11 月

障害者を雇用している近隣の会社を訪問し、継続支援や就労環境の監視等の役割が果たせるような活動を計画する。

#### ◇在宅ワーク事業 通年

平成 24 年 9 月から開始した「在宅ワーク」も4年目を迎えたが、運営の困難さも見えてきた。在宅の障害者にとって、「在宅ワーク」は就労移行への唯一のチャレンジの場所であり、ここで就労に向かうための生活環境の整備や、複数の利用者との作業体験と同時に、自信を取り戻す場所である。

また、「在宅ワーク」は、新規の就労希望者が実習先や就労先が見つかるまでの間や、就労が続かず再チャレンジする利用者にも勧めており、働くことへの関心を保つ工夫をしている。引きこもり支援も合わせて、対応を検討する。